

第70回国民体育大会

我らかく戦う

期日 平成27年9月22日(火)～10月6日(火)
会場 和歌山県和歌山市ほか

公益財団法人 北海道体育協会

我 ら か く 戦 う

第70回国民体育大会 No.1

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	5	総合8位、得点80点	福島選手や北口選手の優勝を含み、走・跳・投それぞれに各選手が活躍し、着実に得点を重ねて総合入賞を目指す。	増野元太(110mH)、 福島千里(100m・女子リレー)、松本彩映(10000mW)、 平加有梨奈(走幅跳)、 北口椋花(やり投・砲丸投)	小池祐貴:日本選手権200m 7位、高平慎士:日本選手権200m 8位、増野元太:日本選手権110mH 3位 山下義弘:日本選手権走高跳6位、福島千里:日本選手権100m・200m 優勝、北風沙織:日本選手権100m 8位 京谷萌子:日本選手権走高跳7位、平加有梨奈:日本選手権走幅跳2位、澤田奨汰:インターハイ走高跳6位 北口椋花:日本選手権やり投5位、インターハイやり投優勝・砲丸投6位、世界ジュニアやり投優勝
サッカー	成年男子	3	団体5位、得点20点	対戦相手はどこであれ、チームとして普段の戦いを本戦で出し切れるか、また、国体は試合時間が短いため、安易に失点すると試合を優位に運ぶことが難しくなる。まずは安定した守備をテーマに、攻撃ではチャンスを確認し得点に結びつけるゴール前での集中力とフィニッシュの精度が勝敗を左右すると考えている。ここ数年、成年男子は競技ポイントを獲得していないことから、是が非でもまずは初戦突破を目標としたい。	北海道サッカーリーグ前期首位の札幌蹴球団で本戦に臨む。 黒田亮介:抜群のスピードと突破力 石井啓太:キャプテン、広い視野と展開力、攻守に渡ってハードワークする	伊藤巧貴:2008年大分国体出場経験あり
	女子	4	団体3位、得点48点	若い選手とベテランを融合したチームを編成しており、若い選手の勢いあるプレーをベテランがフォローしながらの戦いになると考える。しっかりとした守備を構築したうえで、攻撃へ展開するチームを目指す。	神成美紀(ノルディア北海道)	
	少年男子	3	団体3位、得点48点	コンサドーレ札幌U-18の選手が中心ではあるが、早生まれの選手たちがチームをまとめ、一致団結して積み重ねてきたコンセプトを実践し、各々の長所を発揮しながら戦っていく。	藤村怜、大屋敬太郎、佐藤大樹(コンサドーレ札幌U-18)	連続出場:藤村怜
テニス	成年男子	3			齋藤聖真(早稲田大学)、田中裕也(JR北海道)	齋藤聖真:H27インカレ・ダブルスベスト8、H26インターハイ・シングルスベスト4、ダブルス準優勝
	成年女子	3			丹野里佳子(神戸親和女子大学)、池田捺未(上武大学)	
	少年男子	3			高島陸(北海道尚志高校)、福永海斗(札幌藻岩高校)	
	少年女子	3			渡部さくら(札幌清田高校)、沖田優羽(札幌市立真栄中学校)	
ボート	成年男子・女子	2		全種目準決勝進出を目指す。		
	少年男子	5		決勝進出を目指す。男子クオドルブルに期待。		木村晶:全国選抜ボート大会7位、全日本ジュニア選手権5位。父親は1992年バルセロナ五輪出場。
	少年女子	2				
ホッケー	成年男子	2	団体5位、得点20点	キーパーの山崎が学生時代に日本一になっているので、守りを固め強豪チームに挑んでいきたい。	山崎元:全日本男子選手権準優勝、全日本学生選手権優勝	
	成年女子	2	団体5位、得点20点	対戦チームが決定していないが、大敗しないように守り続け、好機を得点したい。	河内佑有子・竹田智恵(天理大学4年)	
	少年男子	2	団体5位、得点20点	守備力を高め、少ないチャンスを生かす。		
	少年女子	2	団体5位、得点20点	昨年の長崎国体では初戦突破し、5位入賞を収めた。今年のチームは、昨年よりも力がついてきただけに何としても初戦突破は果たし、上位入賞したい。	菅原楓(札幌新陽高校3年):2020ターゲットエイジ日本代表 東地区U18選考会に合格	姉妹出場:菅原楓、茜
ボクシング	成年男子	4	団体8位、得点31点	関東大学リーグ戦で活躍しており、波に乗れば各選手が期待以上の活躍が出来る。	阿部龍征(東京農業大学):過去に成年の部準優勝。 酒井幹生(東京農業大学):関東リーグ1部で今年度は主将として活躍	和田亮一(札幌工業高校):昨年度より母校教員として現役復帰。今年度9年ぶりに国体予選会に出場。
	少年男子	2	団体8位、得点31点	全選手1・2年であるが、競技経験はアンダーより行っており、波に乗れば各選手期待出来る。		細野勝梧(札幌工業高校定時制):前回大会で、2つ上の兄(恭兵)が優勝。
バレーボール	成年男子	2		大学生らしい発射としたプレーをまず念頭に置いて戦いたい。		
	成年女子	2		学生選抜として初の参加ですが、臆することなく全力を出し切りたい。		
	少年男子	3	団体7位、7.5点	インターハイ北海道大会優勝チームの東海大四高校を中心としたチーム構成で、組織的なブロックを駆使して、守備力・機動力を活かして、上位進出を狙う。	外崎航平、古川慎が2大会連続出場。	
	少年女子	3	団体7位、7.5点	効果的なサーブと組織的なブロックが機能すると、エースによる得点率が上がり優位な展開でゲームを進めることができる。	廣瀬七海(旭川実業)が全日本高校選抜で活躍した。	廣瀬七海(旭川実業)、舛田沙淑(山の手)、道下ひなの(山の手)、塩出朋香(山の手)、島原政南(山の手)が昨年度に続き連続出場
バスケットボール	成年男子	4	団体3位、27.5点	ベテランと若手が上手く噛み合えば上位進出も可能。	大釜、栃本、西島(宮田自動車)	
	成年女子	3	団体5位	ここ数年の国体の戦況を踏まえ、大学生のスピードと経験豊富な社会人の構成とし、コンビネーションプレーで戦いに臨む。	藤原恵美(Thirty Girls):的確な状況判断とゴール下の巧みなプレーが光る選手	
	少年男子	2	団体8位	ディフェンス・ルーズボールを粘り強く頑張る、失点を少しでも減らして接戦に持ち込みたい。	山田友哉:アウトサイドシュードが得意でチームの中心選手 榎山吏玖:ドリブル・リバウンドでチームに貢献する選手	
	少年女子	3	団体5位、得点12.5点	一戦一戦をチーム一丸となって、オフェンス・ディフェンスを積極的にトライし、スピードや高さを活かして全力で戦い、上位入賞を果たしたい。	栗林未和:国体北海道予選会 最優秀選手賞 田中未来:国体北海道予選会 優秀選手賞	栗林未和:H26 U-18日本代表、H27日・中・韓ジュニア交流競技参加選手
レスリング	成年男子	2		ふるさと選手の活躍に期待したい。	山本康稀(日大):H26の内閣総理大臣杯、全日本大学選手権、国体制覇	
	少年男子	2		グレコ陣の奮起を期待したい。		
ウエイトリフティング	成年男子	2		全選手が入賞を目指しての戦いとなるが厳しい。		
	少年男子	4		福本、松本は上位入賞を目指して、矢澤は入賞を目指しての戦いとなる。		福本龍馬:H27インターハイ 94kg級 5位 松本経丸:H27インターハイ 105kg級 4位
ハンドボール	成年男子	2	団体5位	現役大学生のチーム。守って速攻で若い力を結集して初戦突破を目指します。		
	成年女子	2		ふるさと精度を使って道外にいる選手を含め、走り負けないように個別に練習してきているので、点差を離されることなく積極的に守って攻めていくような戦いをしたい。	小田原・佐々木・竹林・安田のふるさと選手がどれだけ守って走る試合展開をしてくれるか。法領田の速攻とシュート力。	
	少年男子	2		初戦突破を目標としている。少年男子は参加チームが16なので、全国高校総体の3回戦が国体の初戦だと思います。60分間、最後まで集中して試合に臨みます。	宮本辰弥:まだ2年生であるが、高い身体能力を活かして活躍が期待される。	
	少年女子	2		インターハイに出場した函館大学付属柏稜高校を軸に選抜したチームで、小・中・中で一緒にプレーしてきた選手が多く選出されている。	佐藤悠果(柏稜高校3年):1年から国体に出場しており、広い視野を利用したゲームメイクやシュートが魅力。	3年連続出場:佐藤悠果、石田彩華 2年連続出場:渋谷優花、川村麻悠
自転車	全種別	2		競技場での練習機会は少ないため、他県と比較して競技力(技術・感覚)が低い位置にあるが、路上練習の成果を最大限に発揮し、入賞を果たしたい。	中川拳(帯広三条高校):JCFの強化指定を受け、調子も上がってきており、昨年はポイントレースの決勝で入賞を逃したが、今年は期待できる。	中川拳:全日本ロード2位
ソフトテニス	成年男子	3		今年度から新しく導入された「シングルス」での勝敗が、チームの勝敗に大きくかわってくる。シングルスはどう戦うのかプランをより鮮明に描き、チームとしての戦術の徹底を図る。	大塚悠平:チーム最年長であり、今年度、道内の大会ではシングルス、ダブルスともに優勝を果たしている。	
	成年女子	4		今年度から導入されるシングルスは、得意としている選手もおり、若さと昨年の経験を活かれば上位を狙える。	濱谷杏奈:昨年度インカレベスト8	
	少年男子	3		今年の全国レベルはさほど高くはなく、十分戦えると考える。今年からシングルスが導入され、各ミニ国体でもかなり勝敗を左右していたようである。シングルの強化と事前の強化練習試合でレベルアップを図り上位を目指す。		インターハイベスト団体16(北海道尚志学園高校)
	少年女子	3		今大会の少年女子は、ブロック大会を経て出場してくる大会となるので、初戦から激戦が予想される。今年度から導入されるシングルの勝敗が大きく勝負を左右する。		一昨年(東京国体)7位入賞、昨年(長崎国体)4位入賞と2年連続入賞。
卓球	成年男子	3		リーグ戦なので、1戦1戦勝負に行ければ、面白い展開になる可能性がある。	厚谷武志(専修大)関東学生シングルス 優勝 後藤卓也(日本大)関東学生新人シングルス	後藤卓也(日本大)が中3から7年連続出場
	成年女子	3		中堅の加藤(JR北海道)と関東で戦っている伊藤(中央大)と三橋(日体大)の力が融合出来れば、十分チャンスあり		
	少年男子	3		1年生主体のチームなので、勢いに乗って戦いたい。		
	少年女子	4	団体3位、得点16.5点	入賞狙えるチームです。	佐藤瞳:全日本選手権シングルスベスト8(世界ランキング31位)	
軟式野球	成年男子	4		投手を中心に守り抜き、ワンチャンスで得点を取りに行く。		
相撲	成年男子	2		中堅の矢後をポイントゲッターとして戦っていきたい。	矢後太規(中央大学)	兄弟出場:佐藤勇輝、友輝
	少年男子	2	団体32位、個人16位	3年生が8割を占めるので、経験を活かし予選突破したい。	萩原光	萩原光:全国選抜高校新人戦80未満級 準優勝、全日本ジュニア体重別選手権大会100未満級 3位
馬術	全種別	4	団体3位、得点6点 個人8位、得点37点	入賞確実と考えられる成年男子・女子、馬場馬術に期待している。	楠木(総合競技):H26アジア大会で団体銀 林・米本(馬場馬術) 伊藤・楳川・萩原(少年団体飛越)	広瀬楓:H27全日本高校馬術選手権優勝

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
フェンシング	成年男子	3		チーム構成3人のうち、得意種目が3人揃わない選手構成で上位入賞は苦しい状況にある。		
	成年女子	3		レベル的には上位入賞は難しいが、全員一致で入賞を狙いたい。	真田玲菜(法政大学2年):ナショナルチームのメンバー	兄弟出場:真田玲菜、涼太
	少年男子	3		全国レベルから判断すると上位入賞は難しいが、チーム一丸となって入賞を狙いたい。		
	少年女子	3		メンバー3人のうち、1名は中学生で技術的には高校レベルにあるが体力的には劣るため、苦戦は免れない。		
柔道	成年男子	4	団体3位	今年は、先鋒の大学生、次鋒、大将と若手選手で、若手とベテランで構成されたチーム。先鋒で若い力を発揮し1点を先取、試合の流れを作り、次鋒以下の若手選手の力強さと、ベテラン選手が持ち前の技術力を発揮して、失点することなく、いずれかが1点を追加する流れで勝ち進み、上位進出を目指します。		
	成年女子	3	団体5位	大学や高校の大会で全国の常連ではありますが、失点がなければ3回戦は突破できる。		
	少年男子	4	団体5位	渡辺選手と瀬川選手を軸に失点を抑えていけば上位入賞できる。	渡辺大地(旭川龍谷高校3年) 瀬川勇氣(東海大学附属第四高校3年)	渡辺大地:春高73kg級 5位、2年連続出場 瀬川勇氣:春高100kg級 5位
	少年女子	3	団体3位	3人で粘り強くチームで助け合う	秋場麻優(北海高等学校3年)インターハイ3位	
ソフトボール	成年男子	2	団体5位、得点20点	予選会を経て、現状における北海道最強チームを編成した。またふるさと選手を加え、練習不足を補いつつ5位入賞を目指したい。		
	成年女子	3	団体3位、得点44点	経験豊富な野手がどこまで守り切れるか。少ないチャンスをものにし、上位進出を狙う。		
	少年男子	1		持っている力を全て出し切り頑張る。		
	少年女子	3	団体3位、得点44点	上位進出のために投手を中心とした守備力を鍛える必要がある。実力がある関東・近畿・九州ブロック代表との対戦が上位進出のカギを握る。	廣瀬夏季(とわの森三愛高校):U-19日本代表のピッチャー。丁寧なコントロールと打撃が魅力。	H26全国選抜大会優勝 3年連続出場:廣瀬、2年連続出場:磯部・森本・神・西尾・山根・宮本
バドミントン	成年男子	4	団体3位	シングルの経験・実績共に豊富な竹村選手と、ダブルスを本業とする実力ある高島選手に加え、単複を担える東野選手の3人で構成され、とてもバランスの良いメンバーが揃った。上位対決ではいかに体力を温存できているかが重要になってくるので、それぞれの役割を確実に果たして無駄なく勝ち上がり、ベスト4以上を狙う。	東野圭悟:北海道社会人選手権大会 シングルス優勝、ダブルス準優勝	竹村純:第57回全日本社会人選手権大会 シングルス準優勝
	成年女子	3	団体8位	相手によるが、ダブルスでポイントをあげないとなかなか厳しい状況になる。3人共国体の経験者になるので、自信を持って自分の実力を出せば簡単には負けないと思うので、事前の大会で結果を出し自信を持って国体を迎えたい。	本田・野村組(北翔大学):H26インカレ ダブルスベスト8、全日本総合本戦出場	連続出場:本田・野村組(4年連続) 永野:国体8回出場
	少年男子	3	団体5位、得点7.5点	実力的には全国大会上位に入る選手がおらず、厳しい戦いを強いられる。	片桐悠輔(旭川実業高校):全国有力校合宿に参加	二谷優吾・能戸孔太郎(札幌第一高校):全日本ジュニアダブルス ベスト16
	少年女子	2	団体5位	札幌静修高校の林田・三上選手のねばり強さと勝負強さ、旭川実業高校の佐藤選手の攻撃とスピード、それぞれ魅力を存分に発揮できれば上位進出も夢ではない。	林田・三上(札幌静修高校) 佐藤(旭川実業)	
弓道	成年男子	3	団体8位、得点3点	年齢的には20代2名、40代1名の団体であり、本大会未経験であるが、先入観を持たず自分たちの力を信じて戦いたい。		
	成年女子	4	団体4位、得点15点	若い連続出場者が勢いをつけ、ベテランの実力者が締める。1本1本集中した戦いをしたい。		
	少年男子	3	団体8位、得点3点		橋本佳樹	
	少年女子	3	団体8位、得点3点	ベスト8に入ることに全力を尽くしたい。		佐藤碧紀(札幌旭丘高校3年):H26インターハイ、全国高校選抜大会に続く3度目の全国大会出場
ライフル射撃	全種別	3		全国トップクラスの選手はいるものの絶対的な強さを持ってはいない。チーム力が試されると思う。	武内響、足立利佐子	武内響:高校選抜DP3位、全日本選手権DP1位、日韓対抗戦AP60JM564点のJr日本記録 足立利佐子:高校選抜DP40JW6位、全日本選手権DP40JW6位
剣道	成年男子	4	団体3位	可能な限り前衛陣で勝星を先行したい。	先鋒:安藤(現全日本代表選手)	初の警察単独チーム
	成年女子	3		初戦敗退が続いているので、3名の力を出し切り初戦突破を目指したい。		
	少年男子	3	団体5位	前半リードで後半に結びつける。	奥村優太:インターハイ北海道個人チャンピオン	連続出場:高松詩郎
	少年女子	3	団体5位	2年生が3名と若いチームのため、思い切った試合を心掛ける。	福田安優子、牛木麻理奈	連続出場:福田安優子、牛木麻理奈 福田安優子:インターハイ個人ベスト16
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体6位、得点15点	東京・長崎国体を経験したメンバーが中心のチームで若手の活躍で予選リーグを突破し、決勝トーナメントで上位を目指したい。		
	少年男子	3	団体10位	厳しくしつこいディフェンスでロースコアに持ちこみ、1回戦突破を目指す。	伊藤鐘平、繁松哲大、鈴木匠(札幌山の手高校)	
山岳	成年男子	5	団体5位、得点12点	杉本怜選手と松浦凌選手は今年新たにチームを組むが、今年も天皇杯に入賞できる力があると見ている。	杉本怜:2013年ワールドカップ・ボルダリング 優勝 松浦凌:第5回全国高校選抜クライミング選手権大会 個人9位	
	成年女子	5	団体2位、得点21点	他県の強豪少年選手が年々成年に上がってきており、ここ数年の決勝は予選より順位を落とすと形となっている。今大会では弱点的課題を克服し、納得できる決勝順位が取れるよう挑みます。	一安瑛子:2011山口国体 個人成績1位 萩原亜咲:2009~2013まで5年連続ボルダリング日本代表選手	連続出場:萩原亜咲(12年連続出場、全て入賞うち優勝3回)、一安瑛子(6年連続)
	少年男子	4	リード 7位、得点6点 ボルダリング 8位、得点3位	環境に恵まれ強豪選手の多い関東3県、岐阜、山口、鳥取といった強豪チームと上位を争うことになるだろう。北海道の両名は普段の力を出し切れれば十分上位を勝ち取る力を持っているので、メンタルを強く保って戦いたい。		JMA日本ユース選手権大会 武者7位、岸本19位 全日本ボルダリングユース選手権大会 武者8位、岸本31位
	少年女子	4	団体3位、得点18点	北海道は年間を通してユースの強化選手を選抜してクライミングの強化に重点において練習に取り組んできており、その中でも小学生からクライミングを始め、早くから期待されていた小武を中心に、国体に向けて他県に負けないよう去年からすでに実践的なトレーニングを積ませているので期待している。	小武芽生:リード、ボルダリング共に全国でも屈指の実力を持つ 北谷未紗:競技歴豊富で伸び盛りの選手	小武芽生:2013ボルダリングジャパンカップ 6位、2013リードジャパンカップ 6位 北谷未紗:長崎国体 ボルダリング11位、リード10位
カヌー	スラローム・ワイルドウォーター	3			山岡洋貴:近年入賞しているため、今年も期待している	
	スプリント	2	個人8位、得点2点	今回も決勝まで残ることを期待している。		
アーチェリー	全種別	4	団体3位	突出した選手はいないが、平均以上のチーム力が全種目にあり、全種目での入賞を狙う。		
空手道	全種別	4	団体5位、得点17点	昨年度の国体で3位入賞を果たしている成年女子形の岩本選手を中心に、今年度もまずは皇后杯入賞を目指している。	岩本衣美里、和泉貴旭、滝川悟史	岩本衣美里:成年女子形 長崎国体3位 滝川悟史:成年中量級 東京国体5位 和泉貴旭:成年軽量級 長崎国体5位、東京国体5位 岡田千夏:成年女組手 国体5位入賞経験あり
銃剣道	成年男子	2	団体8位	団体戦であるので、チームの勝利を最優先として一戦一戦を戦いたい。		
	少年男子	3	団体5位、得点12点	それぞれ実力を出し切り上位入賞を目指す。		先鋒・中堅が全国高校生銃剣道大会で共に個人5位
クレー射撃	成年男子	3	団体5位、個人3位	世界レベルで難しくなっているルールをいかに打ち破るか。競技力向上を含め挑んでいきたい。	今野雅裕(トラップ):公式競技を始めて3年の今年、A級得点(90オーバー)を撃った選手。研究熱心で射撃の素質もある。	佐藤堅司(スキート):H26全日本選手権大会5位
	成年女子	3	団体8位	演技競技は落ち着いたメリハリのある演技ができれば勝点になる。段位が高いので自分の技量を発揮できる。		
	少年女子	4	団体8位	試合は臆することなく臨めば勝てる。演技は落ち着いた理合のある動きができれば勝てる。		
ボウリング	成年男子	4	団体8位、得点3点	競技種目は4人チーム、2人チーム戦及び個人戦となっている。昨年度、4人チーム戦で5位入賞を果たしているものの、僅差での入賞となっており、早期のコンディションは空くとチームワークを発揮し、チーム戦での入賞を目指したい。		長崎国体 4人チーム戦5位入賞、個人戦6位入賞(立木芳邦)
	成年女子	3	団体8位、得点3点 個人8位、得点1点	今年は過去の大会の中で総合的に戦力が低いと思いますが、幸いにも4人とも国体経験があるため、互いに経験を活かすとともにチームワークを大切に、各種目とも予選通過を最低目標に頑張ります。	保木絵理、福園祐理恵	夫婦出場:保木慎吾(9年連続出場)、絵理(6年連続出場) 古賀直美:52回大会以来、18年振りの国体出場
	少年男子	3	団体7位、得点6点	2人共大崩れする選手ではないので、実力を出し切って団体戦入賞を目指したい。		連続出場:日野瑛史(3年連続)
	少年女子	2	団体8位、得点3点	昨年の国体では、道内の普段の成績に比べ低いスコアで入賞できなかった。今大会は2名とも2回目であるので、雰囲気慣れで普段の実力を発揮し、団体戦での入賞を目指して欲しい。		
ゴルフ	成年男子	4	団体3位	初出場の和賀選手が実力を十分に発揮できれば、チームとしての上位を狙える。		
	女子	4	団体5位	国体経験者の2人と道アマチャンピオンとのチーム。3人の総合力で入賞を目指したい。		
	少年男子	3	団体10位	初めてのチームに中学チャンピオンの小村選手を起用。長谷川選手の安定感にも期待。	長谷川大晃	長谷川大晃:日本ジュニア選手権 12位 小村優太:全国中学校ゴルフ選手権 32位
高校野球(軟式)		4	団体3位	投手を中心に守り勝つ野球で上位進出を目指す。僅差のゲームに持ち込みたい。	下村尚弥(投手):エースとして選手権ベスト4進出の原動力となった。	長崎国体に続き、2年連続出場